



# 「きもち」の葉っぱトーク～特別活動や短学活での活用を～

12月22日(木)、翁長佳代先生が授業を公開しました。本時の自立活動は、**話すことを意識したトレーニングを通して、適切な発言から他者と肯定的に関わる力**を身につけることが目的です(表1)。

佳代先生イイね!と感じたのは、生徒がビジョントレーニングや認知機能トレーニングに取り組んでいる中、「**オッケー、とても良くできていたね**」、「**まだ大丈夫だよ**」などと、**言葉のシャワーをかけることで、教室が癒やし空間**となっていました(図1)。生徒が安心して学習できる環境づくりってやっぱり大切ですね(\*^\_^\*)。

「きもち」の葉っぱトークは、人のそれぞれの気持ちを、自身の体験談と関連付けてスピーチする訓練です。生徒は、何種類にも及ぶ様々な気持ち(付箋紙)の中から一つ選び、聞き手の興味を引くエピソードを考え、相手に良く伝わるように、工夫してスピーチする姿がありました。

葉っぱ「トーク」なので、そのスピーチに対して質問したり、話を広げたりすることで、「肯定的に関わる力」がより高められたかもしれません。佳代先生、Thanks!

表1 本時の自立活動(6区分27項目)

◆人間関係の形成
(4)集団への参加の基礎に関すること
◆コミュニケーション
(4)コミュニケーション手段の選択と活用



図1 生徒の学習を夢中にさせる空間づくり

表2 「きもち」の葉っぱトーク(付箋紙に色々な気持ちを書き出し、選んだ気持ちを自身の経験と関連付けて話す)

佳代先生	ドキドキ	学年集会で離任のあいさつがあって、みんなの前でお話をする時にドキドキが止まらなかった。
Kさん	痛い	音楽室で扉を開けたり閉めたりして遊んでいたら、指をはさんで痛かった
Rさん	悲しい	私の好きなジャニーズで、5人中3人が脱退することになって悲しい気持ちになった。

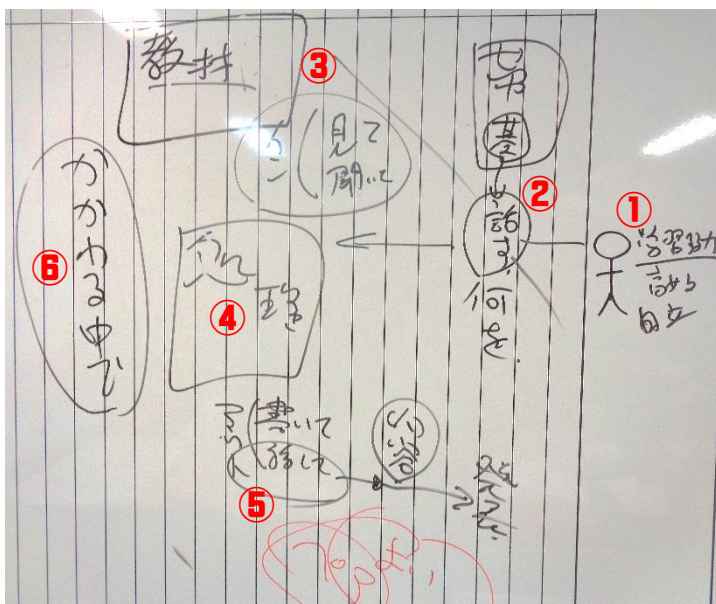


図3 教頭先生による授業リフレクション テーマ「個別最適な学び」

## 「学習する力」を高めるためには?

～自立した学習者の育成～ by 教頭先生

- ① 生徒の「学習する力」を高めるためには?(目的)
- ② 本時のねらい「話すこと」を達成させるためには?
- ③ まずは教材などを通して、見たり聞いたりしてインプット
- ④ インプットした内容を頭の中で処理する
- ⑤ 頭で処理した内容を書いたり、話したりしてアウトプット
- ⑥ インプットとアウトプットを繰り返す活動を通して、「人と人との関わり」が生まれる

生徒自身が根拠を探して、生徒同士を関わらせて、教師がその学習過程を褒めて価値づけてあげることで、「学習する力」の育成につながることを期待できる

自立活動は、**個々の生徒が自立を目指し、学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動**です。自立活動の内容は6区分27項目で構成されています。

区分 ①健康の保持 ②心理的な安定 ③人間関係の形成 ④環境の把握 ⑤身体の動き ⑥コミュニケーション